

ラウンド・アバウト・ミッドナイト

弦巻 啓太

登場人物

古川 大和 (ふるかわ やまと)

41歳。ホテルフロント。妻と離婚協議中。

榎 貞九郎 (かまち さだくろう)

39歳。イベント会社勤務。独身。

●シーン1

舞台は古川大和の自宅マンション、ベッドルーム。ベッドが二つ並んでいる。

ベッドの間に小さな台。その上に時計や、カレンダー、伏せられた写真立て、貯金箱などが置いてある。

マンションの最上階なのか、天窓がある。バブルの時代に建てられたデザイナーズマンションのような雰囲気の一部屋。片側の壁面にハンガーで吊られた大和のパジャマがかっている。

舞台に明かりがつくと、向かって右側のベッドの上に貞九郎が座っている。ベッドの上でキョロキョロ辺りをチェックし、立ち上がりベッドサイドの台の上も確認する。

駅員のような指差し確認。

貞九郎 …（確認しきった）よし。（時計を見て）……5、4、3、2、1、来い！

何も起きない。

貞九郎 ……ああ！

奥で鍵をガチャガチャ開ける音。

貞九郎 惜しい……！ 良い読み！！

声（大和） ただいま……。

貞九郎 おかえりー。

声（大和） お……。

貞九郎 お疲れさん。

部屋に入ってくる大和。手ぶらで、職場からの帰り。

貞九郎 大変だったね。

大和 いやあびつくりした。あんなに大きな声出す藤川さん初めて見たよ。

貞九郎 藤川さん？

大和 （外套を脱ぎながら）その倒れた人。おとなしい人なんだ。声小さくてさ、まあそれが良いんだけど。見た目も文系な感じで、物腰も柔らかいし。その人が（ベッドに腰掛け）突然うずくまって「ぐはあああああああ！」って。目も血走ってひんむいてるし、一気に油汗がだあーって。軽いホラーだったよ。

貞九郎 ああ、男の人。

大和 そうそう。

貞九郎 お客さんの前で？

大和 まさか。さすがにバックヤードまで行つてだよ。最後の力をふりしぼったんだろ。うな、裏に入つてすぐバタ、「ぐはあああああああ！」ってゴロゴロゴロだもん。まあちよつとフロントにいたお客さんに聞こえてたけどな。

貞九郎 なんだったの、結局？

大和 結石。尿管結石。

貞九郎 ああ。

大和 怖いわ。あれ。

貞九郎 相当痛いらしいね。

大和 そりゃあもう。あの藤川さんでさえ「ぐはああああああ!!」だもん。気をつけたほうが良いぞ。

貞九郎 どうやって？

大和 食生活とか。

貞九郎 食生活をどう？ カルシウムとらないほうが良いとか？

大和 カルシウム？

貞九郎 石になりそうじゃん。

大和 カルシウムは骨だろ。

貞九郎 あれ、遺伝するらしいよ。

大和 え？

貞九郎 親がなつてたら用心したほうが良いんだって。

大和 本当に？

貞九郎 というよ。

大和 まじで？

貞九郎 え？ なったことあるの、親父さん？

大和 …あるわ。

貞九郎 気をつけろよ。食生活。…腹減ってる？ 何か食う？

大和 なんかあるの？

貞九郎 ナポリタンの残りなら。食べるなら温めるよ？

大和 え？

貞九郎 食う？

大和 自分でするよ。

貞九郎 良いって。疲れてんだろ。

大和 でもさ、

貞九郎 良いって。着替えてろよ。

貞九郎、部屋から出ていく。

釈然としない大和だが、まあいいか、と着替えを始める。服を脱ぎ、パジャマへ。

大和 今まで救急車呼んだことはあったけど、従業員では初めてだわ。

声（貞） よくあるの？

大和 年に一回か二回な。

声（貞） そうなんだ。

大和 ウチよりでかいところではもつとあるだろ。腹が痛い、胸が苦しい…。ドアに足の指を挟めた…。あれだぞ、どつか旅行する時は絶対保険証持ち歩いていたほうが良いぞ。

声（貞） 気をつけるよ。

大和 …ていうか、貞、保険証あるのか？

声（貞） …あるよ。

大和 旅先で一日楽しんで、おいしいもの食べてって夜に、ホテルに帰ったら旦那さんがぶっ倒れたりとかさ、たまらないよな。

声（貞） えー？

大和 なんでもない。

貞九郎 （ナポリタンを持ち現れながら）トラベルはトラブルってね。

大和 え？

貞九郎 なんでもない。（渡す）

大和 おお、ありがとう。いただくわ。

貞九郎 どうぞ。

大和 作ったのか？

貞九郎 うん。今日休みだったんだ。

大和 いただきます。（食べる）

貞九郎 …チンしすぎた？

大和 そんなことないよ。

貞九郎 冷たい？

大和 …そんなこともないよ。

貞九郎 チンし直す？

大和 大丈夫だよ。

貞九郎 でも良かったな、大和がシフト入ってる時で。

大和 まあ、そうだな。

貞九郎 代われる人がいる時でさあ。

大和 他に予定もないしな。

貞九郎 そんな言い方。……本当に温め直さなくていい？

大和 いい、いい。大丈夫。

貞九郎 ……すげえな、何時間勤務？

大和 日勤やって、ナイト変わって、日勤やってナイトのバッチまで付き合ったから…
40時間以上か。

貞九郎 お疲れ。

大和 まあ仮眠しながらだけどな。

貞九郎 バッチ？

大和 バッチ。

貞九郎 何？バッチって。

大和 日時更新作業のこと。

貞九郎 ニチジ？

大和 業界用語だよ。機械とか、顧客の情報とか、全部に一日経ったことを計上するんだよ。

貞九郎 へえ。

大和 分かってないだろ。

貞九郎 ない。

大和 理解する気もないだろ。

貞九郎 うん。だって、一日経てば一日だろ。

大和 ……いろいろあるんだよ。

貞九郎 いろいろ？

大和 一日経つ、ってことは、いろいろあるんだよ。

貞九郎 大変だな。お疲れ様。

しばし黙々と食べる大和。

それを見つめる貞九郎。

大和
…何？

貞九郎
え？

大和
何してるの？

貞九郎
見てるの。

大和
…なんで。

貞九郎
いやあ、美味しいかな〜って。

大和
美味しいよ。

貞九郎
良かった。

しばし食べ続ける大和。

見つめる貞九郎。

大和
…。(食べることに集中)

貞九郎
(終わるのを待ち構えている)

大和
(食べた) …ごちそうさま。

貞九郎
お粗末様。

大和
…。

貞九郎
いやあ、改めて手料理を食べさせると、なんだか気恥ずかしいな。どうする？
風にでも入る？ あ！ 入れておけばよかったな、この間に。

大和
なんだよ。

貞九郎
え？

大和
……なんかあるんだろ？

貞九郎　　なんか？

大和　　なんか企んでるだろ。下心あるんだろ。

貞九郎　　下心なんか。

大和　　なんか頼みごとがあるんだろ、どうせ。

貞九郎　　お前さあ、後輩の優しさをどうして素直に受け取れないかな。

大和　　見え見えだよ。妙な優しさ振り撒きやがって。飯食わせて、腹一杯にさせて、風呂にも入れてこっちの気持ちか緩んだところで何か頼みごとしようって魂胆だろ。

貞九郎　　そんなんじゃねえよ！

大和　　金か。

貞九郎　　そうなんだよ。貸してくれないか。

大和　　やつぱり。

貞九郎　　頼むよ。

大和　　だめだ。

貞九郎　　すぐ返すから！

大和　　絶対信じちゃだめなやつだろそれ。

貞九郎　　来週には、倍にして。

大和　　もっと信じちゃだめなやつだろそれ！根拠ないだろ倍になる！

貞九郎　　お願いだ、お前しか頼める相手いないんだって……！

大和　　貞、

貞九郎　　頼む！

大和　　いくら。

貞九郎　　8万。

大和　　……微妙！

貞九郎　　頼むよ！

大和　　また微妙な額！軽い気持ちでしぶしぶ仕方ねえなあと渡せない額をお前。

貞九郎 頼む！

大和 なんでもないんだよ。なんで必要なだよそんな額。

貞九郎 ……返さなきゃいけないんだ。

大和 お前、借金あるのか？！

貞九郎 それだけだよ、

大和 お前、ここで暮らす時借金はないって言っただろ？！

貞九郎 違うんだって。ほら、先月雨が降り続きで大きい現場がなくなったからさ、ちよつと借りちやつたんだよ！それ返すだけだから！

大和 ……お前。

貞九郎 頼む！

大和 なんぞ貯めておかないんだよ普段から。お前はさ、俺と違って正社員とかじゃないんだから、俺よりしつかり貯蓄しておかないとダメな身分だろ？！

貞九郎 おっしゃる通りです。

大和 そうやって天気やなんやかんやに左右される仕事なら、なおさら自分の生活を支えるお金はちゃんと確保して運用しないと！

貞九郎 はは。返す言葉もございません。

大和 分かっているのか。

貞九郎 はい。身にしみて。

大和 お前、来年幾つだ。

貞九郎 知ってるだろ。

大和 知ってるけど聞いているの！ 来年幾つだ！

貞九郎 40です。

大和 40にもなってる！

貞九郎 ははあ！

大和 保険とか払っているのか？！

貞九郎 払ってません。

大和 年金は、

貞九郎 滞納しております。

大和 威張って言うな。

貞九郎 威張ってはいないだろう。

大和 堂々と言うなって意味だよ！

貞九郎 ならそう言えばさあ…。

大和 なに？！

貞九郎 ははあ！（平伏）

大和 ……貞、

貞九郎 はい。

大和 俺だって言いたくはないよ。説教できる身分じゃないよ。でもさあ、人としてだよ。人として、それはまずいんじゃないの、て。人から金借りてさ、家も居候でさ、保険も年金も払ってなくて、それで何かあった時どうするの？ って話だよ。

貞九郎 はい。分かってます。

大和 もう40だろ？ 来年40だろ？ 若くはないんだよ。体だっておかしな所が出てくる年齢だよ。足腰が突然痛む、内臓だつてガタがくる、目も霞む、酒も抜けにくくなる、石だつてできる、物覚えも悪くなる、

貞九郎 はい、よく分かります。

大和 本当か？！

貞九郎 分かってます。この生活を改めないといけないな、と重々承知しております。

大和 本当だぞ。

貞九郎 ええ。

大和 高校生だった頃はもう四半世紀前なんだから。

貞九郎 恐ろしいですね。

大和 考えろよ。

貞九郎 ははあ！

大和 改めろよ。

貞九郎 はい。

大和 ん。それならいい。

大和、ナポリタンの皿を戻しに去る。帰ってくる。ベッドで横になる大和。
間。

貞九郎 え？

大和 ん？

貞九郎 ええええええええ!! それだけ!!

大和 え？

貞九郎 せ、説教して終わり!! 偉そうなこと言って終わり!! そこはさあ! あれ!! 「今回だけだから」ってなるパターンじゃないの!!

大和 パターン!!

貞九郎 貸してくれるでしょう普通! あれだけ釘を刺したんだもんグサグサ!

大和 なに甘いこと。

貞九郎 ええええええ。じゃあなにあの演説!! あの説教!! おれ何のために肅々と聞いたの!!

大和 ダメだ。大体どこに借りたんだ。お前…、やめろよ消費者金融とかじゃ、

貞九郎 違うよ。

大和 ほんとか？

貞九郎 女だよ。

大和 お前最低だな。

貞九郎 なんだよ、

大和 どうせ元カノだろ？

貞九郎 そうだけどさ、

大和 最低だな、昔の女に金を借りる、

貞九郎 仕方ないだろ困ってたんだから。

大和 それで？ 期日だから返せって？

貞九郎 うん。

大和 当然だな。

貞九郎 頼むよー！ 金を返せないなら私とヨリを戻せって言ってきてさー

大和 戻せば良いだろ。

貞九郎 ちよっと面倒くさいヤツなんだよ。メンタルが。良いやつなだけだよ。

大和 良いやつだろ。元彼にお金貸してくれるんだから。8万も。

貞九郎 いや、そいつが貸してくれたのは6万。

大和 同じだよ。良いやつに変わりは無いよ。てか増えてるじゃねえか2万！

貞九郎 頼む！ 付き合うのはさ、もう勘弁な相手なんだよ。

大和 じゃあ他の元カノから借りれば良いだろ!! これまでいっぱいお付き合いして来たようですし、お前。

貞九郎 そうもいなくてさ、みんな結婚したり子供生まれたり、家庭作っちゃってさ。そこはさあ、やっぱ立ち入れないのよ。結界みたいなもんで。

大和 貞、

貞九郎 頼むよ！ えらい勢いで。

大和 お前が返さないからだろ。

貞九郎 今朝、ここに押しかけてきてさ、その女が。返すかヨリを戻すかの二つに一つって、婚姻届持ってきてさ、

大和 ここに来た?!

貞九郎 そう！

大和 お前、言ったのかここの住所！ ここは、

貞九郎 言っていない！ それは言っていない！ 本当に！

大和 じゃあなんでその女ここに来るんだよ。

貞九郎 だから怖いんだろ！

大和 ……。

貞九郎 そういうやつなんだよ。

大和 なんてちゃんと返さなかったんだよ。6万ぽっち。

貞九郎 来月、でかい現場があるんだ。子供向けの。バイトだけで50人集まる。5日間ある現場だから、まとまった金も入るし、そこでちゃんと返すから。な、頼む！

大和 貞九郎、

貞九郎 頼む！ 大和！

大和 ……6万だけだぞ。

貞九郎 ありがとう！

大和 あれだからな、ちゃんと返せよ！その女に。

貞九郎 もちろんだよ。俺だって結婚させられたくねえよ。

大和 ちゃんと貯金しろよ。

貞九郎 分かりました。

大和 いざって時のためにだ。いざって時の。

貞九郎 はい。いざって時のために貯金します、これからは！

大和 保険も払え。

貞九郎 分かった。

大和 ……明日下ろしてくる。

貞九郎 感謝します。

大和 今回だけだぞ。

貞九郎 ははあ！（平伏）

大和 ちゃんと返せよ。いやだぞ、ここに知らない女が来るの。

貞九郎 わあかっている。今回は緊急事態だったんだって。俺だって来て欲しくないもの。

大和 ……なんか疲れた。（転がる）

貞九郎 もう寝るか？

大和 ああ、歯あ磨いてない。でも起き上がりたくないよ、もう。

貞九郎 虫歯になるぞ。大丈夫か？ 保険入ってるか？

大和 (キツと睨む)

貞九郎 冗談だよ。

大和 寝る。なんか疲れたよ。誰かさんのせいで。40時間勤務した後だぞ。

貞九郎 そうだな、もう寝たほうがいいよ。

大和 誰のせいだよ。

貞九郎 電気消す？

大和 うん。(完全に布団に入ってる)

貞九郎 消すぞ。

大和 うん。

貞、電気を消すアクション。

暗転。(に、近いが見えてはいる)

貞九郎 明日、お金よろしくね。

大和 分かってるよ。

貞九郎 忘れないでね。

大和 忘れねえよ。

貞九郎 よろしく、

大和 おやすみ。

貞九郎 おやすみ。

間。

突如ガバツと起きる大和。電気をつける。明転。

貞九郎　なんだよ、どうしたんだよ。

大和　…女が来た？

貞九郎　…そうだよ。でもちゃんと追い返したんだって。

大和　…どこまで？

貞九郎　へ？

大和　その女、どこまで来たんだ？

貞九郎　どういう意味？

大和　どこまで入ってきたんだその女？

貞九郎　（焦る）……さあ。

大和　さあってなんだよ。

貞九郎　ちゃんと追い返したよ。

大和　どうやって？

貞九郎　え？

大和　どうやって？

貞九郎　言って。

大和　言って？

貞九郎　…ここは俺の家じゃなくて、先輩の、って、

大和　その女、この部屋に入れたのか？

間。

大和　貞九郎…。

貞九郎　違う。

大和　何が。

大和、ベッドから跳ね起きて自分のベッド周りの匂いを嗅ぐ。

貞九郎 何やってんだよ。

大和 お前どけるよ。

貞九郎 いやだよ。

大和 早く、

貞九郎 眠いよ。

大和 降りろ！

大和、貞九郎をベッドから降ろす。（突き落とすか引き摺り降ろす）

貞九郎 乱暴！

大和 （シーツを見た後に匂いを嗅ぐ）

貞九郎 おい大和、

大和 （もう一度自分のベッドを確認）

貞九郎 大和ってば、

大和 …入れたな…。

貞九郎 え？

大和 この部屋に入れただろうその女、

貞九郎 入れるわけないだろ。

大和 なんか匂いが残ってる！ その女の！

貞九郎 おかしいよお前。警察犬か？

大和 ここに入れたんだな！

貞九郎 妄想だよ。お前大丈夫か？

大和 お前、(は！)

大和 ベッドサイドの貯金箱を見る。

貞九郎 (は！)

大和 なんかずれてないか、この貯金箱。

貞九郎 え？ なんで？

大和 ずれてるよ、絶対。いつもの場所から。

貞九郎 地震だろ。

大和 (貯金箱の裏のふたを開ける)

貞九郎 なにやってんだよ。

大和 中身確認してるんだよ。(数えてる)

貞九郎 中身って、貯金箱だろ？ いくら入ってたか分からねーだろ!!

大和 分かってるよ。ちゃんと把握してメモだって残してあるんだ！

貞九郎 おまえ！ 夢がねーなー！ 貯金箱って、いくら入ってるかわからないからワクワクするんだろ!! こんくらいかなーと思って開けたら「あれ!! 思ったより多い!! 増えてる!! うれしー!!」ってなるのが醍醐味だろ？

大和 …減ってる。

貞九郎 え？

大和 減ってる。

貞九郎 え？ なんで？

大和 減ってるぞ、5000円。

貞九郎 記憶違いだろ大和の。年をとると物覚え悪くなるんだろ、

大和 取ったな。

貞九郎 借りました。

大和 貞！

貞九郎　だつて！怖かったんだもん！少しでも金払わないと結婚してもらうっていうから！

大和　おまえゝ。

貞九郎　悪かったよ！黙ってたのは悪かったよ！後でちゃんと返すつもりだったんだ。

大和　最低だぞコソコソしたまねして。40にもなる男が友人の貯金箱から5000円盗むって、情けないと思わないか？！

貞九郎　仕方なかったんだって。

大和　やったな。

貞九郎　ええ？！

大和　その女とやったな。

貞九郎　ええ？！

大和　ここに入れて、甘いこと言つてやつて、5000円渡して納得させて返したんだろ。

貞九郎　違う！

大和　どう違う！

貞九郎　ここに入れた！！入れましたよ！確かに！でもそれは招いたんじゃない、止める暇もなく突っ込んできたの！慌てて追いかけたんだから！

大和　やつぱり…。

貞九郎　確かに来ました！ここまでは来たよ！来ました！女がいるんだろって疑つて、ここまで勝手に入つて来たんだ！！止めたよ？そりや止めますよ。でもすげー勢いで！すげー形相で！それで、必死に説得して、必死に頼み込んで少しでも金出せっていうから、そこから申し訳ないけど少しお借りしたんだよ。それでなんとか帰ってもらったの。緊急事態だったんだから。この部屋めちやめちやにしような勢いで。

大和　…。

貞九郎　悪かったし、俺も下手うったよ。でも必死だったんだから。

大和　…やってない？

貞九郎　やってないやってない。怖くてできるかよ。そんな火に油を注ぐ。

大和　…。

貞九郎 謝るよ。ごめん！勝手に金抜いた！でもちゃんと返すから、その5000円も。

間。

貞九郎 すいませんでした！

間。

大和 本当か今の話？

貞九郎 本当。もう嘘はない。

大和 言っていないことも…

貞九郎 ないです。全部白状しました。

大和 …。

貞九郎 本当だって、

大和 だって…

貞九郎 だって？

大和 …なんか、ずいぶんあれじゃない？お前のことずいぶん好きじゃない？その女。

貞九郎 まあ、

大和 ……それってさ、お金じゃないでしょ、本音は。

貞九郎 え？

大和 別れたくないってことでしょ？その女。

貞九郎 …。

大和 結婚してやったら？

貞九郎 やだよ。

大和 良かったな。これでお前の人生も落ち着くし。昔からある話だろ、借金のかたに、って。

貞九郎 簡単に言うなよ。

大和 簡単に言ってないよ。

貞九郎 簡単だろ。他人事と思って。

大和 他人事だけどさ、簡単には言ってないよ。

貞九郎 簡単だよ。簡単じゃないだろ、結婚って。

大和 ……。

貞九郎 (あ)

大和 ……寝るか。

貞九郎 大和、

大和 疲れた。

貞九郎 そういうつもりじゃ、

大和 わーかってるよ。寝る。

ベッドに入る大和。

貞九郎 ……。

大和 電気消してくれ。

貞九郎 ……。(電気を消す)

大和 明日、お金下ろしてくるから。

貞九郎 うん、…6万な。

大和 5万5千円な。

貞九郎 うん。(ベッドに入る)

間。

大和
おやすみ。

貞九郎
…おやすみ。

間。

大和
簡単に言って、悪かったな。

貞九郎
大和、

大和
おやすみ。

貞九郎
…おやすみ。

本当に暗転。

●シーン2

数日後。

今度は貞九郎のベッドの側にパジャマがかかっている。

大和のベッドに誰か寝ている(大和自身)。掛け布団を顎の上あたりまで引っ張り上げ、顔は見えない。

玄関をがちゃがちゃいう音。

声(貞) ただいまー。

大和 おかえり…。

声(貞) 寝てんのかー？

大和 うん。

貞九郎 (部屋に入ってくる) お、わりい、寝てたのか？

大和 遅かったな。

貞九郎 搬入が遅れてな。今までかかったよ。ちゃんとエレベーターの大きさを考えて搬入手順組めってな…

大和 (起き上がる) いてて…。

貞九郎 なんだ、どっか痛めたのか？

貞九郎、見ると大和はホテルの制服のまま寝ていた。

貞九郎 どうしたんだ？ 着替えろよだしねえなあ。(着替え出す)

大和 ……。

貞九郎 ？ どうした？ 皺になるぞ、大事な制服。ホテルマンはホテルの顔なんだろ。

大和 ……。

貞九郎 え？ お前、その格好で帰ってきたの？ 電車に乗って。

大和 うん。

貞九郎 なんで着替えなかったんだよホテルで。私服は？ どうした？

大和 痛い。

貞九郎 うん、なにが。

大和、両手を見せる。右手も左手も親指人差し指中指が怪我をしている。

貞九郎 なにそれ!! 漫画みたい!

大和 フロントの金庫に挟んだ。

貞九郎 はあ?

大和 金庫を少しずらすことになったんだよ。それで、何人かで持ち上げて運ぼうとしたら、藤川さんが、

貞九郎 結石の。

大和 そう、あの藤川さん。

貞九郎 救急車で運ばれた、

大和 そう、その藤川さんが、手を滑らせて、

貞九郎 うんうん、

大和 俺の手の上に金庫の全重量がかかったんだよ。それで、

貞九郎 床との間に?

大和 うん。

貞九郎 うわあ。病院は?

大和 折れてはいないって。けど、しばらく動かさない方がいいって。

貞九郎 まあそうだろうな。…ずいぶんトラブルメーカーだな藤川さん。

大和 大人しい人なんだよ。

貞九郎 それで、

大和 まっすぐ帰ってきた。

貞九郎 呪われてんじゃないのか、お前の職場。

大和 かもな。

貞九郎 着替えないの？

大和 ……。

貞九郎 (は)

大和 手伝ってくれ。

貞九郎 …ええ…、

大和 動かせないからさ、指。ちよつと、ボタン外してくれ。(立つ)

貞九郎 ええ…、

大和 俺だって嫌だけどさ、仕方ないだろ、な、

貞九郎 なんで職場で誰かに頼まなかったんだよ。

大和 頼める訳ないだろ。

貞九郎 いないの？喜んで脱がしてくれそうな女の子とか。

大和 いねえよ。そんなこと口にしたら速攻で働けなくなるよ。

貞九郎 えええええええ。

大和 貞九郎、

貞九郎 気持ち悪いなあ。

大和 得意なんだろ、脱がせるの。

貞九郎 そういう意味じゃねえよ。

大和 こないだ貸してやったろ!! 6万。

貞九郎 そうだけど、

大和 頼むって。

貞九郎 えええ。

大和 シャツのボタン、外してくれ。

貞九郎
……。

貞九郎、大和の正面に立ちボタンを外そうとする。
顔が接近する二人。

貞九郎
…。

大和
なんだよ、

貞九郎
見るなよ。

大和
仕方ないだろ、だって。

貞九郎
どつかそっち見ててくれよ。

大和
そっち？

貞九郎
どこでもいいから、どつかそっち、

大和、貞九郎の頭越しに少し上を見る。

大和
いいか？

貞九郎
おう。

2、3個外したところで、

貞九郎
(ガバと離れる)

大和
なんだよ。

貞九郎
息が！息が！うざいよ！

大和
息い？

貞九郎
なんで鼻息当てるんだよ、頭頂部に！

大和 お前がどつかそっち見てろっていうから！

貞九郎 わざとやってるだろお前！

大和 やってねえよ。やるわけないだろ！

貞九郎 もう息我慢してくれよ、すぐに終わるから！

大和 ええ？

貞九郎 外してやらねえぞ！言うこと聞かなきゃ！

大和 なんだよ、お前だって居候の分際なんだから、家主のいうこと聞け！

貞九郎 威張るなよそうやって困ったら！

大和 わかったよ、じゃあこうしよう、後ろからやってくれ、二人羽織みたいに。そうしたら目線も気にならないし、息もかかんないだろ。

貞九郎 間違いねえな。

大和 サンドウィッチマンかよ。

貞九郎 ほらそっち向けよ。

大和、貞に背中を向ける。

後ろから抱きしめる格好で上からボタンを外していく貞。

大和 (二つくらい外してもらった後で) こっちが気持ち悪いよ!!

貞九郎 じゃあどうしろって言うんだよ!!

大和 早くやってくれ、早く、

貞、ボタンを全て外しシャツも脱がせてやる。

大和、指を痛めないようにして器用にパジャマの上を着用する。(衣装によって変更あり)

大和 貞九郎。

貞九郎　なに、

大和　ベルト、外してくれ。

貞九郎　…。

大和　頼む。

貞九郎　大和…。

大和　お前だっけいつかこういう立場になるんだぞ。

貞九郎　そっちの立場になるのは構わねえよ。お前こそこっちの立場になってみろよ。

大和　俺だっけ頼みたくないよ。

貞九郎　じゃあ頼むなよ。

大和　貞九郎、

貞九郎　……。

大和　頼む。

貞九郎　……。

大和　もう限界なんだ。

貞九郎　限界？

大和　怪我してから8時間、もう限界なんだ。

貞九郎　（！）

貞九郎、ベルトに手をかけようとしゃがむが、心が抵抗する。

貞九郎　くっ……！　南無三！

早業でベルトを外す。

貞九郎　どうだ！！

大和 貞九郎！これ！このボタンのところ！

貞九郎 ああゝ!! めんどくせえー!!

貞九郎、そこも外してやる。

大和 ありがとう！

大和、慌てて用を足しに行く。

貞九郎 なに？これ。

手洗いを流す音。

大和 ふうゝ。危なかった。お前が帰ってくるのがもう少し遅かったら、やばかったな。

貞九郎 もう少し遅く帰って来れば良かった。

大和 よいしょ。(パジャマのズボンを履こうとする)

貞九郎 お前…まさか、上げるのも俺にやらせようって言うんじや…。

大和 しねえよ。ボタンじゃなければ問題ないよ。

大和、器用にズボンを下半身をひねりながら履く。

貞九郎 おお。

大和 な。

貞九郎 すげえな。

大和 (嬉しくなって) お前もやってみろよ。

貞九郎 や、なんで？

大和 なんてって…。

貞九郎 飯食ったのか？ 食ってないんだろ？

大和 おう。

貞九郎 出前でもとるか。

大和 箸使わなくていいヤツ。

貞九郎 寿司でもとるか。

大和 わざと言ってるだろ。

貞九郎 ピザでも頼む？

大和 自分で頼むよ。せつかくお前の分まで払ってやろうと思ったのに、

貞九郎 ココイチにしようか？ スプーンなら持てるだろ？

時間が経過する。

二人、食事を済ませて寝るところ。

大和と貞九郎、それぞれベッドに入ってる。

スマホをいじってる貞九郎。

タブレットで電子書籍を読んでいる大和。

大和 (口で操作している)

貞九郎 …おい、

大和 ん？

貞九郎 うるさい。何やってんの？

大和 手が使えないから、口でやってんだよ。

貞九郎 気持ち悪いな。鼻でやれよ。

大和 鼻だと狙いが定まらないんだよ。

貞九郎 チュツチュ音立てる必要ないだろ。

大和 これが一番思い通りに操作できるんだよ。

貞九郎 悲しい図。40過ぎたおっさんが…。

大和 (無視)

貞九郎 思っただけださ。

大和 …なんだ？

貞九郎 女紹介してやろうか？

大和 は？

貞九郎 紹介してやろうか？ 誰か女、

大和 いいよ。

貞九郎 いやまじで。

大和 冗談だろ。

貞九郎 冗談じゃなく。

大和 どうした？

貞九郎 …やっぱさ、必要なんじゃない？ 大和には。人生を共に歩む女が。

大和 なんだよ急に。

貞九郎 いらなの？ 新しい女

大和 いらないよ。

貞九郎 なんで。

大和 面倒臭いんだよ、もう。

貞九郎 女は山のようにいるぞ。星の数ほど。

大和 教えてもない家に押しかけてくる女とかな。

貞九郎 それは極端な例だよ。

大和 突然家庭を放り出して出ていく女とか。

貞九郎 それは特殊だよ。

大和 そんな女ばかりだろ。

貞九郎 いいのか？ そんな一部の女しか知らない女性観で生きて。不幸だぞ？ 先入観を捨てろ。その他の全女性にだって失礼だ。

大和 お前女で困ってばかりだろ。

貞九郎 まあな。

大和 懲りないよな、お前。

貞九郎 ああ！ それでも、俺は女性は素晴らしい存在だと思っている。

大和 面倒臭くなったら5000円渡してポイポイ乗り捨ててくるくせにな。人と人つてのは、その面倒くさいのをどれだけ乗り越えたかなんだぞ。40にもなってお前はそこから逃げてるんだよ。

貞九郎 自分はどうなんだよ。だったらお前も新しいパートナー探せよ。40になったつてもな、あと40年人生あるかもしれないんだぞ？ 必要だろ？ 伴侶が。人生を共に歩むパートナーが。

大和 ゼクシイの回し者か？ お前は。

貞九郎 違うか？

大和 俺は誰も必要なんじゃないよ。一人で生きていける。

貞九郎 無理だよ。

大和 お前よりはちゃんとやってるよ。

貞九郎 そうでもねえよ。

大和 ええ？

貞九郎 そう思ってるだけで、結構危なっかしく生きてるよ、お前。

大和 どこが、

貞九郎 大和、友達いないだろ。

大和 いるよ。

貞九郎 知り合いじゃなくてさ、友達だよ友達。休みの日に一緒に遊ぶ。飲みに行く。

大和 いないけど。

貞九郎 な、紹介してやるって？

大和 いない。

貞九郎 強がるなよ。

大和 強がってないよ。

貞九郎 会ってみろよ。

大和 しつこいな。

貞九郎 大和に会わせたい女がいるんだ。

大和 なんだよそれ。

貞九郎 (スマホの画像を見せて) こいつ。

大和 (一瞥してから) 良いよ見せなくて。

貞九郎 チェックしたろ今。な？ なかなか美人だろ？ 31。

大和 貞九郎、

貞九郎 これ、修正なし。

大和 え？

貞九郎 興味湧いた？

大和 ……湧かない、

貞九郎 またまたあ。

大和 会わない。

貞九郎 会ってみろって。

大和 なんのために。

貞九郎 ……えーと、老後のため？

大和 老後って…お前の方こそ心配しろよ自分の。

貞九郎 いや、そりゃさ、俺は正社員じゃないし、良い歳してアルバイトですよ、イベン

トの。借金だつてしてるし、高校の先輩の家に間借りしてますよ。経済性で言えば、危なっかしいこと極まりないよ。でもさ、大和はちゃんと働いてるし、蓄えもあって今後もバッチリと思ってるかもしれないよ。でもさ、何かあった時、金じゃ解決しないことだってあるじゃん。人でしょ？ 困った時助けてくれる人が、支えてくれる人が身近にいるかってことでしょ？ 大和、俺以外にいる？ 誰か助けてくれる人が？

大和
いるよそのくらい。

貞九郎
「助けてくれる親切な人」はいるかもしれないよ？ 問題は、大和が困った時に「助けてくれ」って言える相手がいるのか、ってことだよ。

大和
はあ？

貞九郎
いる？

大和
……。

貞九郎
お金はズボンのベルト外してくれなかっただろ？

大和
……。

貞九郎
な、

大和
それだけのために女と知り合えてか。そんな、自分の老後の心配のために。

貞九郎
大和が知り合ってそれだけにしなけりゃいい話だろ。

大和
貞、

貞九郎
それに、「それだけ」じゃないよ。それって、大事なことだよ。

大和
……貞九郎、

貞九郎
な！ 大和、まずは一回！ 気が合えば二回三回、

大和
貞九郎。

貞九郎
…はい。

大和
…俺、一応妻帯者だから。

貞九郎
分かってますよ。

大和
まだ籍抜いてないから。

貞九郎
そう聞いてます。

大和
会う訳にいかないだろ。

貞九郎
なんで？！

大和
…不貞だろそんなの。

貞九郎
大げさだよ、会うだけだって。

大和
それでも、

貞九郎
友達作ったら？ って話だよ。

大和
向こうはそう思わないかもしれないだろ。

貞九郎
向こうって？

大和
…。

貞九郎
向こうって？

大和
向こうだよ。俺が、こっちで、俺の、向こうだよ。

貞九郎
…千明さんがってこと？

大和
(コクリ)

貞九郎
でも、連絡ないんだろ？

大和
(コクリ)

貞九郎
一年連絡ないんだろ？

大和
(コクリ)

貞九郎
「好きな人ができました」って書き置き残して、いなくなったんだろ？

大和
(コクリ)

貞九郎
じゃあ良いだろ。

大和
良くないだろ。

貞九郎
じゃあ抜いちゃおうぜ、籍。

大和
抜けねえよ。

貞九郎
なんでだよ。お前、千明さんに未練ないって言ってたじゃん。愛情はなかったんだろ、出てく時には既に。

大和
ああ。

貞九郎
じゃあ抜いちゃおうぜ、籍。

大和
そうはいかないんだよ。

貞九郎
求めたって良いだろ、新しい出会い。

大和 だから、それが狙いかもしれないだろ。

貞九郎 ……は？

大和 向こうの。

貞九郎 ……え？

大和 ……狙ってるんだよ。

貞九郎 何を？

大和 今のまま離婚に踏み切ったら、向こう側が不貞を働いて家庭生活を放棄したことになるって、離婚する時の条件が悪くなるから、俺が何かボロを出すのを待ってる訳だよ。だから連絡もせず、こちらからの連絡にも応えずに、逃げている訳だ。そして、俺が我慢できずに他の女と遊びだしたところを押さえて、既成事実にして、立場をイーブンにしよう！そういう狙い…なんだよきつと、向こうの。

貞九郎 だったら尚更早めに離婚しちゃった方が、

大和 ダメだ。

貞九郎 なんで。

大和 ダメだろ。

貞九郎 だからなんで。

大和 ……許せないだろ。

貞九郎 は？

大和 13年だぞ。13年。その結婚生活をさ、突然「好きな人ができた」って一言で放棄されて。頭にくるだろ。許せないだろ。一言言ってやらなけりや気が済まないだろ。

貞九郎 ……お前さあ、

大和 このまま離婚したら、向こうはその「好きな人」と大手を振って一緒にになれる訳だろ？ そんなこと認められるかよ。

貞九郎 ……。

大和 あいつの顔見て、こっちの言いたいことぶちまけられるまで、納得できねえよ。しねえよ。離婚は、絶対。

貞九郎 ……大和、

大和 うん？

貞九郎 前から思ってたけど、お前って、暗いやつだよな。

大和 ……。

貞九郎 ……。

大和 寝るか。

貞九郎 うん。

大和 お前、明日は？

貞九郎 午後から打ち合わせと、週末の現場の下見。

大和 午前中家にいる？

貞九郎 いるよ。

大和 服着るの手伝ってくれな。

貞九郎 えええええ。

大和 コイチのトッピングたくさん食べたろ。

貞九郎 えええええ。

大和 電気、消して。

貞九郎 消すぞ、

大和 おう。

貞九郎、電気を消す。

月明かりが天窓から差す。

その明かりはちょうど二人のベッドに落ちる。

貞九郎 あ、カーテン閉めるの忘れた。

大和 いい。

貞九郎 眩しいだろ？ 月出てるぞ。

大和 いい。このままにしてくれ。

貞九郎　でもさ、

大和　眠れるだろ？

貞九郎　俺は眠れるけどさ。

大和　俺も平気だ。

貞九郎　…。

大和　…。

貞九郎　しつこいかもしれないけどさ、そんな女ばかりじゃないよ、世の中。

大和　……。

貞九郎　ちなみにさ、

大和　うん？

貞九郎　ちなみになんだけどさ、

大和　なんだよ。

貞九郎　千明さんに会ったら、なんて言ってるの？

間。

大和　「裏切り者！」かな、

貞九郎　…ふうん。

大和　変かな？

貞九郎　や、いいんじゃない。大和がそう言いたいんであれば。

大和　え？ もつと言ったほうが良い？

貞九郎　知らないけどさ、それは…。

間。

大和 貞九郎はさ、自分を振った相手になんて言ってきた？

貞九郎 え？

大和 自分を捨てた女に。

貞九郎 …うーん。

大和 …。

貞九郎 “今までありがとう” かな。

間。

大和 え？

貞九郎 え？

大和 まじで？

貞九郎 うん、まじで。

間。

大和 なんか俺すつげえ了見が狭い人間みたいじゃない？

貞九郎 狭いしょ、だって。

大和 え？

貞九郎 え？ だって、そうでしょ？ 自分でも思うでしょ？

大和 …。

貞九郎 （大声で） “裏切り者!!”

大和 （ビクッ）

貞九郎 …てのも、良いんじゃない。カッコつける必要も、見栄はる事もないんだし。

間。

貞九郎 大和らしいよ。

間。

大和 千明が欲しがったんだ。

貞九郎 …ん？

大和 その天窓。

貞九郎 うん。

大和 マンション買う時に、天窓が欲しいって。俺は最初渋ったんだけどな。手入れが大変だし。カーテン閉めるのもいちいち何かに登らないといけないし。

貞九郎 うん。

大和 「星とか月が見える寝室が欲しい」ってあいつ言ってる。

貞九郎 見つけてあげたんだ。

大和 あいつ、物件探しとか全然しなかったから。俺が見つけたやつに最終判断下すだけだし。

貞九郎 まあ大和のほうが細かいだろうしね。

大和 え？

貞九郎 んあ？

大和 町中の物件見て探して…。

貞九郎 感激してたろ？

大和 …。

貞九郎 大和？

大和 …どうだったかな。

間。

貞九郎 …俺はさ、

大和 寝ようぜ。

貞九郎 大和の友達だからな。

大和 …。

貞九郎 そう思っいいいからな。

大和 …。

貞九郎 な？

大和 ちゃんと金、返せよ。

貞九郎 ……。

大和 おやすみ。

貞九郎 おやすみ。

本当に暗転。

●シーン3

翌朝。

ズボンを履こうとしている大和と、それを手伝っている貞九郎。

貞九郎 まだ治んないのかよその指、

大和 一晩じゃ治らないだろ。

貞九郎 (ベルトを入れてやりながら) お前どうすんの？ 通勤中に腹痛くなったら。

大和 助けを求めよ。

貞九郎 誰に？

大和 駅員さんに。

貞九郎 迷惑！ タクシーで行けよ。

大和 いやだよ。そんな大げさな。

貞九郎 タクシー使えよ。

大和 絶対いやだ、そんな勿体無い。職場に行くくらいで。

貞九郎 迷惑な奴だな。

大和 いいから、ほらネクタイも頼む。

貞九郎、正面から大和にネクタイをしてやろうとするがうまく結べない。

大和 何やってるんだよ。

貞九郎 だって普段こっちからやったりしないから、

大和 早くしてくれよ、

貞九郎 動くなつて、じっとしてくれよ、

大和 近い！ 顔が近い！

貞九郎 あー！もうじゃあ、そっち向けそっち！

貞九郎、大和をベッドに腰掛けさせ背後から再び二人羽織の要領で。

貞九郎 これが、こうして、こうなって、

大和 くすぐりたい！耳に息を吹きかけるな。

貞九郎 吹きかけてねーよ！

大和 当たってる！吐息が！

大和、なんとか出勤体制に。

大和 貞、

貞九郎 ん？

大和 会ってもいいぞ。

貞九郎 ああ？

大和 昨日話してた、その、紹介するって話。会ってやつてもいいぞ。

貞九郎 ……。

大和 なんだよ。

貞九郎 いや、わかった。じゃあセッティングする。

大和 うん。

貞九郎 良いんだな？

大和 会うだけだぞ。それに付き合うとかじゃなくて、友達としてだ友達として。

貞九郎 分かってる、

大和 今俺微妙な立場なんだから、

貞九郎 分かってる分かっている。ボロ出すわけにいかないんだもんな。

大和　　そうだよ。奴らの思うツボだ。

貞九郎　分かった。あつちにも連絡しておく。直接見たら、もっと魅力的で驚くぞ。

大和　　は？

貞九郎　画像だと綺麗系だったろ？ 本物はなんていうか、可愛いっていうか、31だけど明るいついていうか…小悪魔的？ ていうか…。

大和　　（ゴクリ）……ん。じゃあそれで。

貞九郎　ありがとう！

大和　　でもあれな、手が治ってからな。

貞九郎　分かった勿論！

大和　　行ってきます。

貞九郎　行つてらっしゃい。

大和　　出ていく。

貞九郎　少し呆然と立ち尽くし、やがてスマホを取る。

自宅電話に電話がかかってくる。

貞九郎　はいはい。

貞九郎　隣の部屋へ。

声（貞）　はい、古川です。え？ …裁判所…調停？ いえ、大和は今仕事で不在です。……

暗転。

●シーン4

明かりつくと夜。

ベッドに腰をかけている貞九郎。スマホをいじっている。どうやらラインをしていた模様。

貞九郎

そろそろかな…。駅で降りて、上機嫌でコンビニ寄って…雑誌コーナーチェックはするけど何も手に取らないで…5…4…3…2…いや、(間) 3…2…1、

ドアの鍵をガチャガチャする音。

貞九郎

当たり～!!

声(大和)

ただいま。

貞九郎

おかえり～!! どうだった?!

大和、部屋に入ってくる。不機嫌。

貞九郎

あれ?

大和

……。

貞九郎

おかしいなあ。楽しかったんじゃないの?

大和

……。(着替え始める)

貞九郎

盛り上がったんじゃないの?

大和

……。

貞九郎

ライン来てたよ。詩織からお前たち別れた後。〃とっても楽しかったです。大和さん、話しやすくて一緒にいて居心地が良かった〃って。

大和

……。

貞九郎 “初めて会う方なのに、調子に乗っているんなこと喋っちゃった。不快にさせてなきや良いんだけど。”だって。なんか不快にさせるようなこと言った？ あいつ。

大和 言っていない。

貞九郎 よ！ “聞き上手”！

大和 ……。

貞九郎 照れるなよ。いやあ、女性はもう良いとか言ってたくせにやるもんですなあ、大和さん。

大和 ……。

貞九郎 いいやつだろ？ 詩織。

大和 ……。

貞九郎 一見クールだけどさ、ノリが良いんだよな。明るくて、おおらかで。

大和 お前だよ。

貞九郎 は？

大和 お前だよ。不快にさせた相手は。

貞九郎 へ？ 俺？

大和 聞いてないぞ。

貞九郎 聞いてない？

大和 詩織さん、お前の元カノじゃねえか！

間。

貞九郎 え？

大和 え？ じゃ、ねえよ！

貞九郎 そんなことまで喋ったのあいつ!!

大和 喋ったよ、全部聞いたよ。

貞九郎 聞き上手にもほどがあるぞ！

大和 一方的に聞いてただけだよ！

貞九郎 あいつ…。

大和 なんて言わなかったんだよ。

貞九郎 小さいことだろ。

大和 小さくないよ！

貞九郎 小さいことだよ。31の女なんだからさあ、いろんな男と付き合ってきた過去があつて当然だろ!! 大和だつて、

大和 俺はないよ。

貞九郎 嘘だあ。

大和 本当だ。千明だけだ。

貞九郎 嘘つくなよ。

大和 嘘じゃなく、千明の他は全くない。

貞九郎 ……え？ 本当に？

大和 本当だ。

貞九郎 …風俗とかも？

大和 ない。

貞九郎 ……それも問題あるぞ。

大和 ねえよ！ それに俺が言いたいのは詩織さんが過去に男と付き合ったことがあるからじゃなくて、お前と、貞九郎と付き合ってたことがある、ってことが、

貞九郎 ことが？

大和 …イヤなんじゃねえか！

貞九郎 小さいことだよ。

大和 小さくねえよ！ 気持ち悪いよ！

貞九郎 小さいよ！

大和 だったら最初から元カノって紹介すれよ！

貞九郎　だつてーもう元カノじゃなく、友達だもん。

大和　屁理屈！　なんだその解釈？！

貞九郎　だつてそうだろう？！　友人になったつてことは、元カノじゃなくなった、てことだろ。歴史は更新されてるんだよ、日々。

大和　はああ？

貞九郎　いいか、付き合ってます。これは恋人。別れました。これは元カノ、元彼。友達に戻りました。これが友人だよ。

大和　はあ？　じゃあ、別れました、でも友達に戻ってません、つて状態が元カノ、元彼？

貞九郎　そう。

大和　何が違うの？　その中間地点！　友達と。元彼元カノの別れたけど友達に戻ってない状態つてどういうこと？

貞九郎　どちらかが未練ある状態のことだよ。

大和　（はあ）

貞九郎　俺と詩織は、友達。だから説明しなかった。

大和　詭弁だ。

貞九郎　それは解釈の違いつてやつだな。

大和　それに…

貞九郎　それに？

大和　……。

貞九郎　なんだよ。言えよ。

大和　詩織さん、まだお前に未練あるみたいだったぞ。

貞九郎　……嘘。

大和　見え見えだよ。

貞九郎　そんなこと無いつて。大和の気のせいだよ。

大和　話してたらさ、分かるだろ。しおしお、お前の話とか、お前と出会った時のいきさつとか話す時、すげー楽しそうだったし。

貞九郎　しおしお？

大和　　！

貞九郎　しお…しお？

大和　　……。

貞九郎　え？

大和　　呼びやすい名前つけてくれって言うから！

貞九郎　それでしおしお？

大和　　なんだよ、

貞九郎　お前が考えたのか。

大和　　悪いか。

貞九郎　寄りに寄って…。

大和　　なんだよ、

貞九郎　お前は？

大和　　は!!

貞九郎　何て呼んでもらったの？

大和　　なんだっていいだろ、

貞九郎　だから教えてくれよ。

大和　　秘密だよ。

貞九郎　何て呼んでもらったの？ しおしおに。

間。

大和　　やまにやー。

貞九郎　…。

大和　　向こうが考えたんだ。

貞九郎 そりやそうだろうよ。お前だったら絶望するよ。

大和 どういう意味だよ。

貞九郎 しおしおも大概だけどな。

大和 (フン) さだっち。

貞九郎 ! お前…。

大和 さだっち。

貞九郎 やまにやーのくせに…!

大和 聞き上手ですから、俺。

貞九郎 ずいぶん打ち解けたんだな。

大和 おかげさまで。いろんなお話を聞かせていただきましたよ。お前と付き合ってた時あったこととか、喧嘩したこととか、行った場所とか。キラッキラした顔で話してたよ。

貞九郎 …。

大和 終盤、ほとんどしおしおを慰める会になってたんだから。

貞九郎 マジで?

大和 お酒飲んで愚痴りだしてさ。見てられなかったよ。健気で。「私にもっと魅力があれば、さだっちは別れるなんて言い出さなかったかもしれない」だって。ずっと言ってたよ。私、味オンチで料理が下手だから。一緒に行動したがりで、いつもくっついてたから…。

貞九郎 あいつ酒弱いんだよ。

大和 未練だろ。どう考えても。

貞九郎 そこを慰めて、しおしおの心をガッチリ掴むチャンスだったわけだろ?

大和 できるかよそんな。そんな、酔った女に付け込むような真似。

貞九郎 だからダメなんだよ。

大和 は?

貞九郎 なんでもない。

大和 お前は友達だと思ってるかもしれないけど、しおしおはまだそう思い切れてないんだよ。

貞九郎

それでも、お前に会ったって言うのは、そこから抜け出そうという意味の表れな訳だからさ。一步踏み出して、明日に向かおうとしてる訳だよやまにやー。未練を断ち切り、過去を振り返らずに、新しい出会いを求めているのは本当な訳だよ。そこはやまにやーが一つがっしりと受け止めて、

大和

俺はしおしおの一步を受け止めるつもりも、心をガツチリ掴むつもりもない。

貞九郎

またまたあ、

大和

当たり前だろ。

貞九郎

ええーなんでえ？ まあ、色々気になる過去設定はあるかもしれないけどさ、

大和

だから、俺まだ離婚してないから。

間。

大和

そんな訳にいかないだろ。俺自身がそんな状態で。

間。

貞九郎

でももうちょっとじゃん。

大和

……？

貞九郎

ちよつとフライングかもしれないけどさ、いいじゃん、大和も明日に向かっちゃええば。

大和

貞九郎、何言ってる？

貞九郎

離婚するんだろ？ もうすぐ。

間。

大和

…は？

貞九郎

ごめん！ 見つけちゃった。手紙。

大和 手紙？

貞九郎 裁判所からの封書。

間。

貞九郎 こないだ電話かかってきてき。裁判所から。

大和 え!!

貞九郎 お知らせ届いてますか、って。封開いてたから、中も見せてもらっちゃった。わりい。でも良かったな、連絡ついて。

大和 ……。

貞九郎 次の調停？に出さえすれば、これ離婚が成立するんだろ？言ってやれるじゃん。
“裏切り者！”って。

大和 ……。

貞九郎 向こうの提示してきた条件、めっちゃいいじゃん。これ、自分側の非を完全に認めるってことだろ、千明さん。

大和 ……。

貞九郎 このマンションも手放すって言ってくれてる訳だし。大和も俺も出てかなくて済むし、一件落着だな。

大和 ……。

貞九郎 良かったじゃん。だから何も気兼ねすることなく、しおしおと…

大和 ……。

貞九郎 ……大和？

大和 ……。

貞九郎 謝るよ、勝手に見たことは。

大和 ……。

貞九郎 大和、

大和 ……。

貞九郎 …知ってたのか？千明さんがどこにいるのか、

間。

大和 （コクリ）出て行って一ヶ月後には連絡があつた。直筆の手紙だ。千明の字だつた。封筒で、便箋三枚。それと、判の押してある離婚届が入っていた。

貞九郎 …。

大和 便箋にはどうして俺と別れたいのか、急に出て行ってすまないとか、あなたは悪くないとか書いてあつた。俺はそれを読んで…びつくりした。こんなありがちなことが自分の人生に訪れるなんて、考えたこともなかった。

貞九郎 俺が見たのは、

大和 俺がいつまでも離婚届を提出しないから、離婚調停の申し立てをしたんだ、あいつ。それのお知らせだよ。第二回の期日を知らせる。

貞九郎 第二回？もう一回目があつたの!!

大和 あつたよ。

貞九郎 いつ!!

大和 先月。行かなかつたけど。

貞九郎 え？

大和 行かなかつた。

貞九郎 行かなかつた？

大和 行かなかつた。

貞九郎 …なんで!!

大和 行きたくなかつたから。

間。

貞九郎 お前……。

大和　　そうか、電話が来たのか。一回目出なかったからだな、やっぱ。

貞九郎　次は？

大和　　次？

貞九郎　二回目に決まってるだろ、

大和　　今月。

貞九郎　今月の、いつ？！

大和　　さあ…。

貞九郎、ベッドサイドの封書を取り出し、中身を見る。

貞九郎　明後日じゃん…。

大和　　そんなすぐだった？

貞九郎　また行かないつもりか？

大和　　うん、まあ。

貞九郎　なんで！

大和　　出勤なんだ。

貞九郎　代わってもらえよ藤川さんに。

大和　　そんな急に、

貞九郎　なかなかないよ！！こんな人生で大事な日取り、そうそうないよ！！無理でも強引でも迷惑かけても代わってもらえよ、

大和　　何一生懸命になってるんだよ突然。

貞九郎　……逃げてるのか。

大和　　……は？

貞九郎　逃げるなよ千明さんから。

大和　　逃げてないし。

貞九郎 逃げてるよ。全力で逃げてるだろ。

大和 えっらそうー

貞九郎 …出席しろよ。

大和 なんて、

貞九郎 これ、出席したほうがいい。

大和 (はあ) 一緒なんだよ。してもしなくても。調停不成立になったら、多分向こうは裁判を起こすだろう。家庭裁判所に。それでも出廷拒否していたら、原告の言い分が認められて離婚は成立。

貞九郎 そこまで引き延ばすのか？

大和 まあ、長くても一年はかからないよ。

貞九郎 (はあ)

大和 貞？

貞九郎 ……。

大和 さだっち？

貞九郎 次は出席しろよ、

大和 どうしたんだよお前、

貞九郎 出席した方が良い。

大和 あ？ ひよつとして条件とか心配してる？ 出廷拒否して裁判官の心証が悪くなって、離婚した時に、このマンション向こうに取られたらどうしようって、住むところなくなるーって心配してる？ 良い条件のうちに離婚しておけて、

貞九郎 そんな心配はしてないよ。

大和 ほんとうか？

貞九郎 離婚したくないんだろ？

大和 はあ？

貞九郎 そうやって一年、夫婦であることを繋ぎ止めていたんだろ、お前。

大和 (フ) 外れ。

貞九郎 逃げるなよ。お前の人生だろ。

大和 (！)家賃も満足に払えない、保険も年金も滞納しているやつに人生のこと説教されたくないよ！

貞九郎 それとこれとは別だろ、

大和 同じです。一緒だよ。お前だって逃げてるだろ。お前の方こそ逃げてるだろ人生から。現実を直視しろ少しは！

貞九郎 大和、

大和 40にもなって、来月の収入がいくらになるかもわからない、そんな不安定な身分で人の人生に口出しするな。

貞九郎 人の話聞けよ、俺はお前のことを思って、

大和 なーにを偉そうに。なんだよ、それでお前、俺に勝ったつもりか？立派になったつもりか？俺は戦ってるんだよ。俺なりに。向こうさんの思い通りになんかなくてやるもんか。振り回されてたまるかっていう、

貞九郎 振り回されてるよ、結構。思い通りにはなっていないかもしれないけどさ、かなり左右されてるよ？

大和 勝手なんだよ。向こう側もお前も。俺のことは俺がちゃんと対処するんだから。別に迷惑かけるわけじゃないんだから。放っておいてくれ。

貞九郎 じゃあ言ってやれよ。直接会って言ってやれよ！「裏切り者！」とでもなんでも。それで離婚届叩きつけてやればいいだろう。

大和 駄目だよ。

貞九郎 なんで！

大和 向こうが俺にしてきたことを考えたら、そんなあつさりと、

貞九郎 向こうって言うなよ、

大和 なに？

貞九郎 向こう、じゃないだろ、向こう側、でもないだろ。千明さんだろ。

大和 細かいこと、

貞九郎 細かくねえよ。

大和 一緒だろ!!

貞九郎 ぼやかしてんだよ。お前は。

大和 貞九郎、

貞九郎　なにが「未練はない」だ。

大和　未練はないよ。

貞九郎　「愛情はない」だ。

大和　ないよ。愛情も。

貞九郎　じゃあなんで一年も先延ばしにする?! 夫婦でいたいからだろ! その日まで!

大和　悪いか!!

貞九郎　認めた…。

大和　悪いかよそれが。そうだよ。別れたくないよ。こんな気持ちで! 別れられる訳ないだろ! 夫婦なんだよ。13年、出会ってから16年一緒に生きてきた夫婦なんだよ。ずっと一緒にいるつもりだったんだよ。それを…好きな人ができまして、別れてください、で、はい、いいですよ、って言えるか?! 言えないだろ。

貞九郎　…。

大和　聞いてねえよ。そんな話、聞いてねえよ。

貞九郎　…。

大和　…。

貞九郎　大和、

大和　…。

貞九郎　やまにやー、

大和　（そっぽを向く）

貞九郎　お前のさ、言いたいこともわかるよ。うん、そりやあな、納得いかないよな。

大和　…。

貞九郎　突然だもんな。

大和　…。

貞九郎　でもさ、ほら、なんて言ってたっけ? あの、お前の職場の、夜やる作業、

大和　?

貞九郎　あの、日にちが過ぎたことを機械に登録する。

大和 バッチ、

貞九郎 そうそうそれ。

大和 …。

貞九郎 毎日やるんだろ？ ホテルだもんな。やらないと大変なことになるんだろ？

大和 そうだよ。

貞九郎 思うんだけどさ…、

大和 …。

貞九郎 大和にもさ、必要なんだよ。今、まさに、…心のバッチ作業が…、

大和 うまくねえよ！

貞九郎 嘘!!

大和 全然うまくねえよ。なにが心のバッチ作業だ。

貞九郎 分かりやすいように例えたんだろ。

大和 慣れないことするな！

貞九郎 しおしおだってさ、

大和 しおしおは関係ない！

貞九郎 聞けって、

大和 お前も関係ない。

貞九郎 関係ない？

大和 もういい。

貞九郎 大和、

大和 もういい！

貞九郎 友達として言ってるんだよ、

大和 余計なお世話だ。いらないよそんな忠告。なにが心のバッチ作業だ。必要ないよ。俺はそんな作業必要じゃないよ。

貞九郎 大和、

大和 出てっくれ。

貞九郎 …え？

大和 出てっくれ！ もううんざりなんだよ！ 偉そうに人の人生に口出ししてきて！ 向き合え、とか、逃げるな、とか、Jポップみたいな説教垂れやがって…。俺はこのままでいいし、自分のしたいようにやる。そうやって生きてくんだよ。人の人生に口出ししてる暇あったら、自分の人生こそなんとかしろ！ 誰のおかげで屋根の下で暮らせてると思ってるんだ！ ボロボロじゃねえかお前の生活！

間。

貞九郎 …分かった。

大和 ……。

貞九郎 出てくよ。分かりました。

大和 ……。

貞九郎 ベッドの下からボストンバックを取り出し、ハンガーにかかっていた服を入れ、パジャマの上から外套を着る。

貞九郎 悪かったな、手紙勝手に見て。

大和 ……。

貞九郎 女に会わせたり。

大和 ……。

貞九郎 じゃあどうも。

貞九郎、出ていこうとする。部屋を出る直前、

大和 金は返せよ!!

貞九郎 (立ち止まり、ゆっくり振り返る) …返すよ。きっちり。

大和
ならいい。

貞九郎
……聞いてない、聞いてない、つて、お前、人の話聞く気ある？

大和
……。

貞九郎
じゃあな。

貞九郎、鍵を置いて出ていく。やがて玄関を開け、閉まる音。
取り残される大和。

間。

大和、ベッドに横になる。はじめは壁の方を見ている。意味なく伸びなんてしたり。鼻歌を歌う。

大和
寝るか、

大和、立ち上がり電気を消そうとして一瞬動きを止める。が、すぐに電気を消す。
月明かりが落ちる。横になる大和。

大和
おやすみなさい、

壁の方を向く。

間。

大和、ガバと身を起こし、

大和　よし…。A Vでも見よう！

大和、起き上がる。

大和　貞もいなくなったことだし。

ベッドから降りようとして、隣のベッドを見てしまう。

大和　……。

大和、ベッドに飛び込むように潜り横になる。壁の方を向いて。
やがて、寝返りを打ち、隣のベッドを見る。

大和　（泣き始める）

年甲斐のない、子犬のような泣き声。身悶えしながら泣く。
泣き声だけが響く。

大和　（スマホを取り出す）

泣きながらラインを打つ。

返信がある。さらに返信する。返信が返ってくる。

大和　（通話を掛ける）……助けて。

電話を切る。

しばしの間。

空のベッドを見ては泣く大和。

玄関の開く音。

貞九郎が戻ってくる。部屋の入口に立つ。

貞九郎
……。

大和
なんで出てくんだよ。

貞九郎
出てけつつったろ……。

大和
なんで出てくんだよ。

貞九郎
……。

大和
お前、電気消す係だろ。

貞九郎
ああ。

大和
じゃあちゃんとしろよ。係だろ。

貞九郎
分かった。

大和
……約束したろ。千明が帰ってくるまでは、そこで寝るって。

貞九郎
ああ。

大和
じゃあそこで寝ろよ。

貞九郎、自分のベッドに腰を掛ける。大和の方を見ている。

大和、寝返りを打ち背中を向ける。

貞九郎
これでいいか？

大和
(泣いている) それでいい。

貞九郎
……。

大和 この部屋は……一人で寝るために買った部屋じゃないんだよ……！

大和、メソメソと泣いている。

貞九郎、外套を脱ぎ、荷物を戻し、横になる。しばし星空を見上げる。

大和 ……怖いんだ。

貞九郎 ちゃんとここで寝てる、て。

大和 千明に会うのが。

貞九郎 ……なにが？

大和 分からない。

間。

貞九郎 ……練習でもするか。

大和 え？

貞九郎 なんでもない。言ってみただけだ。

大和 貞、

貞九郎 とりあえず、今日はもう寝ろ。

大和 ……。

貞九郎 もう寝よう。

大和 ……そうだな。

貞九郎 星が綺麗だぞ。

大和 ……本当だな。

貞九郎 ……。

大和 おやすみ。

貞九郎

…。

大和

おやすみ。

貞九郎

おやすみ。

本当に暗転。

●シーン5

暗闇の中から声がする。

声（貞）

えー、（オホン）第二回調停期日をこれより始めたいと思います。古川、大和さんですね。自分は調停委員の鈴木と申します。本日はよろしく願いします。この調停では古川さんと、申立人の方のお話を伺います。その上で、担当裁判官と協議を行います。

声（大和）

（堂々と）分かりました。よろしく願います。

声（貞）

（その堂々さに引っかかるが）よろしく。この調停はお互いが納得のいく解決方法を話し合って探り出すのがその目的です。相手方、古川さんの場合申立人の方ですね、こちらの誹謗中傷や、非を責めるような言動を行うのではなく、冷静に、自分の考えを述べてください。その上で、正直な意見を口にしていただきたいと思います。守秘義務がありますので、安心してご発言ください。

声（大和）

（堂々と）わかりました。

この辺りから明転。

パジャマで調停の予行練習をしている二人。貞九郎は書類（台本）を見ながら。

貞九郎

まず、先月の第一回調停期日を古川さんは欠席されましたが、その理由は为什么呢？

大和

やむを得ない事情で。

貞九郎

…。前回の調停で申立人からは事前にお送りした答弁書の内容を改めて確認していただきました。離婚に関する条件、要望の点です。ご覧になりましたか？

大和

はい。

貞九郎

ではそれに関する古川さんの意見を。申立人は、まず離婚を申し出ています。その上で、

大和

（喰って）全く認められません。

貞九郎

…離婚には応じない、それで良いですか？

大和

（いい声で）はい。

貞九郎 それはできません。

大和 なんてだよ。真面目にやってくれよ。

貞九郎 ……では、あくまで離婚という要求は認めない、そう言うことでいいですか？

大和 (いい声) はい。

貞九郎 (はあ) 愛情はもうどこにもない、と千明さんは言ってますよ。

大和 そんなこと言っていないだろ。

貞九郎 言うかもしれないだろ。

大和 言わないよ。調停の人だって言わないだろ、そんなこと。

貞九郎 わかんないだろ。

大和 いいから、続きやってくれよ。

貞九郎 離婚した際の条件には目を通されましたか？

大和 (いい声) はい。

貞九郎 それに関して不満な点や交渉したい点は？

大和 (いい声) ありません。

貞九郎 しかし離婚には応じられない。そう言うことですね。条件ではなく、離婚そのものを受け入れられない。

大和 (いい声) はい。そうです。

貞九郎 ちょっと頑なじゃないですか？

大和 違います。

貞九郎 双方納得するためには、歩み寄りの姿勢が、

大和 ならまず彼女の方からこつちに、

貞九郎 やめー！ ちょっと！ 一回やめだこれ！

大和 なんだよ。

貞九郎 やめやめ。

大和 練習してくれるって言ったのはお前だぞ、貞九郎。

貞九郎 言ったけどさ、

大和 せっかく調べて台本作ったんだから、やってくれよ、ほら。

貞九郎 意味ないだろこれ、

大和 どうして。意味あるよ。

貞九郎 ないよ。だってお前そんな風にとっても話せないだろ？ 本番。

大和 そんなことないよ。

貞九郎 そもそもなんでかつこつた声出すんだよ。ふざけてるのかよ。

大和 ふざけてない。

貞九郎 ふざけてるだろう考えても。せっかく協力してやってるっていうのに！

大和 真剣だって、

貞九郎 じゃあさ、普通に答えろよ。

大和 普通に？

貞九郎 そんな無理して渋い声出したら、裁判所の人だって心証悪くなるかもしれないぞ？

大和 え？

貞九郎 ふざけてるって思われるよ、絶対。

大和 それはやだ。

貞九郎 だろ？ 普通にやれよ。

大和 誠実に見えない？

貞九郎 見えない。

大和 ええ？

貞九郎 普通にしろよ。大和はさ、言わば被害者なんだから、

大和 被害者って言うなよ。

貞九郎 裏切ったのは向こうなんだろ？

大和 う…。

貞九郎 非があるのは向こうなんだろ？ 向こうだってその自覚があるから、だからこんな条件で離婚を要求してきたんだろ？

大和 そうだけど…。

貞九郎 ならいつもの大和で答えてみろよ。

大和 いつもの俺!!

貞九郎 ありのままの大和で、

大和 ありのままの俺!!

貞九郎 正直に。

大和 怖いよ。

貞九郎 じゃあもう一回。申立人は離婚を要求していますが、この要求を古川さんはどうされますか？ 要求を認められますか？ 認められませんか？

大和 認められません…。

貞九郎 申立人の要求としては離婚に応じること、だけです。他に金銭や権利、財産への要求はありません。慰謝料は、申立人が支払うことを既に提案しています。それはご確認されましたか？

大和 しました…。

貞九郎 では、離婚に応じられない理由をご説明していただけますか？

大和 ……。

貞九郎 (少し話題を変えようと) …。しかし、あるのかね？ 不貞を働いて出て行った側が起こす離婚訴訟って。

大和 ……。

貞九郎 凄い条件だよな、考えてみたら。離婚さえしてくれたら、慰謝料大和の言った分払うって。まあ現実的じゃない額を要求はできないんだろ？ なかなか言えるもんじゃないよ。理解あるよな、その千明さんの浮気相手。

大和 本気だよ。

貞九郎 浮気じゃなくて本気ってか？

大和 本当だよ。本気で俺と別れたがってるんだよ。俺と離婚して、その男と一緒にになれるならなんでもするってことだろ？

貞九郎 …。

大和 …。(泣きそう)

貞九郎 でもお前、本当にこんなことで良いのか？

大和 ？

貞九郎 離婚調停って、下手したら最後まで当人同士会わないんだろ？

大和 まとまれば、或いは。

貞九郎 いいのかよ。

大和 ……よくない。

貞九郎 要求してみたら？

大和 え？

貞九郎 千明さんと直接話がしたいって。離婚に応じる条件に。

大和 応じたくないよ。

貞九郎 それは分かってるよ。だから、離婚したいなら、まず大和と直接会って話し合う機会を作らせるんだよ。二人きりを拒否するようなら、調停委員も同席する場所
で。

大和 そんなことできるのか？

貞九郎 いや、知らないけど。どうせ初めてなんだし、言うだけ言ってみたらと思って。

大和 ……良いって言うかな、あいつ。

貞九郎 分からないけど。

大和 ……。

貞九郎 男の側が許さないってことも。

大和 あるかな。

貞九郎 ゼロとは言い切れないだろ。どんなやつか知ってる？

大和 ……手紙に書いてあった。

貞九郎 どんな男なんだ？どこで出会ったって？

大和 タクシー運転手。

貞九郎 タクシー。

大和 利用したタクシーの、運転手だつて。

貞九郎 へええええええ。

大和 感心するなよ。

貞九郎 運転手と、客で？

大和 感心するなよ。

貞九郎 だつてそれ、すごくない？ そんなことあるんだな。

大和 知らん。

貞九郎 乗車中に、話してるうちに意気投合して誘つたつてことだろ？ えええ。なにそいつすごくない!!

間。

大和 誘われたのかな、あいつ…。

貞九郎 悪い。あんま考えすぎるなよそこは。

大和 直接会つて、どんなこと言えば良いのかな？

貞九郎 言いたいこと言えば良いんだよ。

大和 言いたいこと。

貞九郎 いつものお前でさ。

大和 いつも俺。

貞九郎 ありのままのお前で。

大和 ありのままの俺。

貞九郎 レリゴーレリゴー。

大和 え？

貞九郎 なんでもない。

大和 でもさ、

貞九郎 うん？

大和 ありのままの俺で捨てられたのに、それで良いのかな？

貞九郎 ビビるなよ。言っても元奥さんだろ？

大和 今も奥さんだ。

貞九郎 ん、まあ。

大和 練習しよう。

貞九郎 え？

大和 練習してくれ。

貞九郎 え？

大和 お前、千明な、俺、俺やるから。

貞九郎 直接会った時の!!

大和 練習相手になってくれ。

貞九郎 それはやだよ。

大和 してくれ！

貞九郎 無理だよ。

大和 だって逆やる訳にはいかないだろ、俺が千明で貞が俺をしたって！

貞九郎 当たり前だよ！なんでやるんだよわざわざ逆！

大和 頼むよ。

貞九郎 今？

大和 今。

貞九郎 ええゝ。

大和 俺、千明だと思って頑張って話すから。お前も、俺を俺と思って、

貞九郎 ……。

大和 さ、

貞九郎 ええゝ。

二人、改めて正対する。

間。

大和 (小声で) なんか言ってくれ。

貞九郎 は？

大和 (小声で) 作戦。

貞九郎 作戦。

大和 (小声で) 千明の方から喋らせる作戦。

貞九郎 ……。

大和 (小声で) なんか、なんか言って。

貞九郎 …… (投げやりに) どうしたら別れてくれる？

大和 ちょっと、

貞九郎 ちょっと？

大和 ストレート過ぎるだろ。やめてくれよ。

貞九郎 ええ？

大和 心臓止まるかと思った。

貞九郎 千明さん役をやれ、っていうから。

大和 千明はそんな切り出し方しないよ。

貞九郎 分からないだろ？ 最悪を想定してみたんだよ。

大和 最悪？

貞九郎 女ってそういうもんだよ。

大和 歪んでる。

貞九郎 心構えしておいた方がいいぞ？

大和　今はさ、シュミレーションなんだから、もうちよつとソフトに頼むよ。徐々に慣らしてるところなんだから。心を。

貞九郎　へいへい。

大和　じゃ、もう一回やるぞ。今度は俺から話しかける。作戦Bだ。

貞九郎　どうぞ。

大和　……久しぶり。

貞九郎　久しぶり。

大和　元気にしてたのか？

貞九郎　元気にしてた。

大和　少し痩せたんじゃないのか？

貞九郎　痩せたかもしれない、少し。

大和　心配したよ。

貞九郎　心配した？

大和　ちゃんとご飯食べてるのかな、て。

貞九郎　ご飯食べてた、ちゃんと。

大和　仕事、してるのか。

貞九郎　してる、仕事。

大和　……。

貞九郎　……。

大和　そのままを鸚鵡返しするなよ。

貞九郎　そのままなんて返してないだろ。

大和　ほとんど一緒じゃないか。順番、入れ替えただけだろ。

貞九郎　だって、

大和　もっと、工夫してくれよ。千明そんなアンドロイドみたいな女じゃないよ。

貞九郎　面倒くせえやつ…。

大和　もつとき、モチベーションを上げてくれよ。友人の人生にとって、大勝負なんだから。

貞九郎　要望が多すぎるんだよ。

大和　もう一回やるぞ。

貞九郎　ソフトに、でも工夫して、

大和　考えてくれ、俺のセンシティブな緊張、

貞九郎　へーい。

大和　……（オホン）元気にしてたのか？

貞九郎　……あなたは？

間。

大和　いいね。

貞九郎　そう？

大和　その調子。……俺は、元気だよ。

貞九郎　いきなり飛び出して、ごめんなさい。

間。

大和　いいよ。

貞九郎　そう？　そう？

大和　なんか千明と喋ってる気になってきた。

貞九郎　今ほとんど考えずに自然に出た。俺も。するつと。

大和　えええ、すごくない？

貞九郎　役者の才能あるのかな？

大和 それはどうだろう。

貞九郎 え？

大和 続きやるぞ。……驚いたよ。

貞九郎 ごめんなさい。

大和 心配してた。

貞九郎 こんなことになってしまつて、本当ごめんなさい。

大和 いいんだ。

貞九郎 自分でもわからないの。

大和 うん。

貞九郎 怒ってる？

大和 いや。俺が至らなかつたからだろ。（ちよつと劇的に）千明のせいじゃないよ。

貞九郎 あなた……。

大和 反省したんだ。お前が出て行つた後、自分の何がいけなかつたのか。俺の何がお前に寂しい思いをさせてしまつたのか。

貞九郎 あなたのせいじゃない。

大和 俺のせいだよ。

貞九郎 違うの！ あなたのせいじゃない！ 私が悪いの……他の男を作つて飛び出した、タクシーに乗つて飛び出した私が悪いの！

大和 千明、

貞九郎 私がいけない女なの。あなたに何も言わず、他に男を作つて。13年連れ添つたあなたをゴミのように捨てた私が、

大和 おい、

貞九郎 なに？

大和 おかしいだろ、

貞九郎 え？

大和 今ちよつと俺を馬鹿にするニュアンスがなかつたか？

貞九郎 え？

大和 なんか、チクチク悪意を感じたぞ。

貞九郎 …全然覚えてない。俺は一生懸命やってただけだよ。

大和 なんか途中から大げさになってたし。

貞九郎 ええ!!

大和 宝塚かよ。『風と共に去りぬ』みたいだったぞ。

貞九郎 ……お前だつて。

大和 おれ？

貞九郎 お前だつてそうだったろ、むしろお前だよ最初にドラマチックにやりだしたの。

大和 言いがかりだろ!!

貞九郎 なにあの “千明のせいじゃないよ”。

大和 自然に言つたよ。そんな言い方してねえよ。

貞九郎 しました。

大和 してません。

貞九郎 大体さあ、思ってる？ 本当に “千明のせいじゃない” つて。

大和 ……。

貞九郎 千明さんのせいだろ。

大和 そんなことないよ。

貞九郎 じゃあ誰のせいだよ。

大和 誰のせいでもないんだよ。

貞九郎 出た！ 誰も悪くないパターン。

大和 うるさいな、じゃあどう振る舞えばいいんだよ。

貞九郎 かつこつけるなよ。心証とか、イメージとか、損得で発言を選んでるからおかしなことになるんだよ。

大和 損得!! 誰に？ 調停委員の、

貞九郎 千明さんに。

大和 いまさら、

貞九郎 考えてるだろ？ それがかつこつけてるっていうの。思ってること言えよ。40
過ぎた男が情けないくらい。危機なんだから人生の。

大和 思ってること…？

貞九郎 そんな難しい？

大和 だって、戻ってきて欲しい…。

貞九郎 ……。

大和 嫌われたくない。

貞九郎 それでも。

大和 それでも、

貞九郎 夫婦なんだろう。お前たち。

間。

大和 ……なんで俺を置いて出て行ったんだ！

貞九郎 そう！

大和 どうしてなにも話してくれなかったんだ！

貞九郎 いいぞ！

大和 この裏切り者！！

貞九郎 出た！！

大和 びっくりするじゃないか！ 突然！

貞九郎 異議あり。

大和 おおう！ 誰？！

貞九郎 千明さんの弁護士。

大和　ふた役!!

貞九郎　うん。

大和　言ってよ。

貞九郎　見事な演じ分けだろ?

大和　「異議あり」って言うの? こういう場でも。

貞九郎　わかんないけど弁護士だから。

大和　え、どうしよう、このあと。

貞九郎　大和は気にしちゃダメだって! こういう場合でも、弁護士に気圧されずテンション落とさず。

大和　う、うん。おれ、すごく傷ついたんだぞ!!

貞九郎　その調子!

大和　悲しかったんだ。すごくすごく、寂しかったんだ!

貞九郎　私だって寂しかったわよ!

大和　おおう!

貞九郎　私だって、ずっとずっと寂しかったんだから!

大和　どうして!! 俺、良い夫だったじゃないか!! 夫としての務めをちゃんと果たしていたろう!!

貞九郎　ここは冷静な話し合いの場です、双方落ち着いて意見してください。

大和　また増えた!!

貞九郎　裁判官。

大和　忙しいなお前。

貞九郎　古川君、冷静に、熱くなりすぎちゃいけませんよ。

大和　ええ!!……だ、誰!!

貞九郎　藤川さん。

大和　会ったことないのに!!

貞九郎　確かにあなたは良い夫だった!

大和 おおう！

貞九郎 なんの落ち度もない。理不尽な思いをしたわけでもない。でも寂しかったの。わがままだけど、寂しかったの！

大和 なぜ！

貞九郎 規則正しくて、しっかり者で、貯金箱の中身まで把握してないと気が済まないあなたと一緒にいて、私、かえって苦しかった！

大和 そんな！

貞九郎 あなたその几帳面さが、苦しかったの。あなたと年齢を重ねることが怖くなったの。堅実で、私を支えてくれてるのに、私は、冒険や遊びのないあなたの人生に、染められていくのが、怖くなったの。これからの人生、今見えてる可能性の中だけで生きていくのが、怖かったの！寂しくなったの！！

間。

大和 ……ずいぶん千明の気持ち分かるんだな。

貞九郎 （やばい）え？今なに喋ってた、おれ？

大和 さすがだよ。

貞九郎 大和、お遊びだろ、だから。

大和 今のも自然に出てきたのか？

貞九郎 なんか、調子出てきて乗っちゃって。怖いな、演技って。

間。

大和 本当にこんな風になるのかな。

貞九郎 こんな風にはならないだろうけどな。

大和 巻き込むなよ、藤川さんを。

貞九郎 味方がいたほうが良いかなって…。

大和 いやだな。

貞九郎 いやだな。

大和 これが俺の人生か。

貞九郎 ……。

大和 なんでこんなことになっちゃったのかな。

貞九郎 なんてだろうな。

大和 俺、何がいけなかったのかな。

間。

貞九郎 大和のせいじゃないよ。

大和 そうか？

貞九郎 書いてあったんだろ？ あなたのせいじゃない、って。

大和 そうだけど…。

貞九郎 じゃ、お前のせいじゃないよ。

大和 じゃあ誰のせいだ？

間。

貞九郎 誰のせいでもないんだよきつと。

大和 それって…

貞九郎 それって？

大和 余計どうして良いか分からなくないか？

間。

雲間が晴れたのか、月明かり、あるいは星明かりが差し込む。

大和 天窓が欲しいって言った時、なんで？ って聞いたんだ。

貞九郎 うん。

大和 そしたら、「月とか星が見えた方が、寂しくないから」って。

貞九郎 ……。

大和 俺な、多分。

貞九郎 うん。

大和 言いたいことなんてそんなに無いんだよ。

貞九郎 うん。

大和 あいつの話が聞きたい。

貞九郎 うん。

大和 千明が考えていたことを知りたい。どんなに寂しかったのか聞きたい。

貞九郎 ……。

大和 もう寂しくないのかな、あいつは。

貞九郎 ……。

間。

貞九郎 提案してみろよ明日。そうしたらさ、会えるかもしれないじゃん。そしたら聞けるじゃん、千明さんの話。

大和 そうか。

貞九郎 どうした？

大和 それができたらさ、千明と会うことが、

貞九郎 うん。

大和 俺、別れ話をするんだな。

貞九郎 ……。

大和、貞九郎が座るベッドへ。

貞九郎、少しよけてやる。

大和、床に膝をつきベッドの布団をかき集めるように抱きしめて泣き出す。

大和 (泣いている)

貞九郎 ……。

大和 (泣いている)

貞九郎 そのための練習だろ。

大和 (泣いている)

貞九郎 できるよ、多分。

大和 (泣いている)

貞九郎 大和？

大和 ……お前の匂いしかない……！ (更に泣く)

大和、ベッドの上で掛け布団を抱きしめて泣き続ける。

貞九郎、大和のベッドへ。

貞九郎、電気のスイッチを消す。

貞九郎 星が綺麗だぞ。

大和 (泣いている)

貞九郎 星が見えたら、寂しくないんだろ？

大和 (泣きながら) ……おやすみ。

貞九郎

……おやすみ。

本当に暗転。

●シーン6

明転すると、翌朝。

出勤直前の大和。

パジャマ姿で見送る貞九郎。

大和 じゃあ行ってくる。

貞九郎 忘れ物はないか？

大和 ない。

貞九郎 裁判所からの通知は？

大和 持った。

貞九郎 うん。

大和 （深呼吸）

貞九郎 調停って何時から？

大和 午後から。ホテル早引けして行ってくる。

貞九郎 ……頑張れよ。

大和 頑張る？

貞九郎 頑張れよ。

間。

大和 おう。

大和行こうとして振り返る。

大和 俺な、

貞九郎 うん、

大和 言つてやろうと思うんだ、千明に。

貞九郎 裏切り者！ だろ？

大和 言わねえよ。や、言うかもしれないけど。

貞九郎 じゃあ、なんて？

大和 “今までありがとう” って。

間。

貞九郎 とるなよ。

大和 もらうわ。

貞九郎 お前が言うと、なんか怖いよ。

大和 ほっとけ。じゃあ、

貞九郎 おう。

大和 行つてきます。

貞九郎 行つてらっしゃい。

大和、出かける。ドアを開け、閉める音。

貞九郎、着替えようとする。

貞九郎 あ。

ズボンのポケットから財布を取り出す貞九郎。

500円玉を出し貯金箱に入れる。

貞九郎

ふふ…驚くぞ……。

“えええ！増えてる！”

本当に暗転。

終。

